

香港粵語の標準化および中文との結合 —— 漢字文化の多様性 ——

銭 俊華

はじめに

『香港基本法』の第9条には、「香港特別行政区の行政機関、立法機関および司法機関は中国語以外に英語も使用することができる。英語も公用語とする」⁽¹⁾とある。日本ではここで述べられている「中国語」の意味を誤解されるかもしれない。原文によれば、「中国語」とは、「中文」あるいは“the Chinese language”である。「中文」とは、今日中国大陆、台湾、香港、海外の華人社会において通用している書き言葉である。漢字には基本的に簡体字と繁体字があるが、文章自体は共通している。中国大陆や台湾の人々は、「中文」という書き言葉と、口語としての普通話・国語とをしばしば混同する。清末に至るまでの「文言文」も、近代に北方の官話に基づいて発展した「白話文」も、広義には「中文」であるが、現代の使用状況から見ると、中文の主流は「白話文」である。

漢字は基本的に表意文字と認識され、語音は地域によって異なる。たとえば、北京の官話の語音、閩南語^{びんなんご}の語音でそれぞれ中文を朗読することができる。さらに日本などの漢字文化圏では音読・訓読が存在する。このように漢字の語音は本来は開放的である。また、漢字に基づき構成される「中国語」という概念は、必ずしも政治の実体に依存するとは限らない。文化的・歴史的には「中国」、すなわち「華」「漢」という存在がある。そのため「中国語」すなわち「華語」「漢語」は、中国大陆や台湾、香港、マカオ、海外華人社会において使用される中国系の人々の文語と口語の総称だと理解すべきである。しかし、20世紀に入ると中国大陆で、中華民国政府と中華人民共和国政府がそれぞれ言文一致、国語統一運動を行い、その結果、語音が統一され、書き言葉と話し言葉は基本的に一致させられるようになった。このため、「中国語」「華語」「漢語」は、普通話(Putonghua/Mandarin)・国語(Mandarin)という口語、語音と同一視されることが少なくない。

大陸や台湾と違い、香港の人々は、中文と粵語^{えつご}(広東語)を同一視するが多い。この現象にはさまざまな歴史的、制度的、文化的な要因がある。本論では、まず香港粵語の背景と近年の論争を遡り、それに基づいて粵語の未標準化と標準化(定義は後出)を検討する。その上で試験制度を事例にして粵語の事実上の標準化を論証する。最後に、現代文化と歴史から香港粵語と中文の結合を考察したい。

I 香港における言語の背景

香港では、中文という書き言葉に対応する語音・口語の法的定義がないが、実際の使用状況から見れば、粵語は常に、無意識のうちに中文の語音・口語と認識されている。その理由としては、粵語が政府、立法機関、司法機関、教育、文化、日常生活などの場面で全面的に使用されていること、粵音（粵語の語音）によって中文を朗読する機能が充実していることが挙げられる。

その歴史的背景について、まず挙げられるのは、広東省に近い香港において、粵語の使用者が比較的多かったことである。たとえば、イギリスからの統治者は香港を管理するため、地元の言語を英語に翻訳する必要があった。香港政庁は1842年から「ローマ字化広東語 (Romanized Cantonese)」「政府方案 (Government System)」を使用し、地元の粵語に基づく地名、人名、地図、街名を公式にローマ字化した⁽²⁾。官僚は粵語の能力を身につけることも重要であった。1857年に香港の官立学校「皇家書館 (Government Schools)」の監督になったロプシャイト Wilhelm Lobscheid (羅存徳、1822-93) も、1889年に輔政司⁽³⁾ 在任中に逝去した「香港公立教育の父」フレデリック・スチュアート Frederick Stewart (史釗域、1836-89) も粵語に精通していた⁽⁴⁾。イギリス統治期に、香港総督やイギリス人官僚は「中文公事管理局」と「英国駐港商務專員公署」によって漢字名を付与された⁽⁵⁾。その際地元の人に好印象を与えるように、粵語の語音、声調などが考慮された。

これらの事例から見ると、香港粵語の制度上の重要性は明らかであろう。もちろん、香港の言語状況は常に変化し続けてきた。第二次世界大戦後、多くの難民が中国大陆から香港に避難して来ると、中国大陆各地の方言は以前よりもっと多く香港で使われるようになった。たとえば、戦後、香港の方言文学運動は主に粵語が対象であったが、客家語⁽⁶⁾ や潮州語⁽⁷⁾ の作品もあった⁽⁸⁾。蘇浙公学 (1958年創立) や福建中学 (1951年創立) では、国語・普通話 (Mandarin) を授業言語とした。香港島の北角地区には上海や福建からの移民が集住し、「小上海」「小福建」と呼ばれ、上海語や福建語が使用されることも珍しくなかった。

しかし1970年代になると、粵語の公共性が徐々に高まってきた。中文を公用語にするための社会運動——1967年の「中文運動」——以降、香港政庁は言語教育政策を調整し、すべての小学校が中文（粵語）で授業を行うことになった⁽⁹⁾。1974年から中文 (Chinese language) は香港の「法定語言 (official language)」になった。「中文」の口語についての法的な定義はないが、実際に粵語は「公用語」と同じ地位になる。たとえば、1970年代からの香港電台 (香港政庁に属する公共放送局) が制作したラジオ放送やテレビ番組は粵語を主に使用してきた。1972年のテレビ番組『獅子山下 (ライオンロックの麓)』より、「香港」という共同体のイメージが公共放送メディアで顕在化し始めた⁽¹⁰⁾。共同体のイメージを市民に与えるためには、ドラマの中では社会の共通語を使用する必要がある。当時の香港電台は使用言語として粵語を選択したのである。つまり、香港において粵語はイギリス統治の

初期から公共性が存在し、それは 1970 年代以降さらに強化された。20 世紀を通じて、中華民国と中華人民共和国ではそれぞれ言文一致の試みや、国語統一運動を行ってきたが、イギリス統治下の香港は基本的にその影響から免れ、特別な言語環境が形成されてきた。

II 先行研究

(1) 粵語をめぐる論争

それでは、粵語 (Cantonese) とは何であろうか？ 中華民国教育部の『国語辞典』によれば、「漢語方言の一つであり、広東省中部と西南部、広西省の東南部、香港、マカオに分布していて、粵語を使う海外華僑が多い」⁽¹¹⁾ とある。『広辞苑』第七版によると、広東語とは「中国語の一方言。広東省・広西チワン族自治区に分布。広州・香港を中心とする地域の共通語でもある」⁽¹²⁾ と説明されている。Oxford Living Dictionaries によれば、「5 千 4 百万人に話されている中国語の一種であり、主に（香港を含む）中国の南部で使用」⁽¹³⁾ とされている。Cambridge Dictionary では、「中国の南部において話されている一つ of 中国語であり、香港において、一つの公用語として使用されている」⁽¹⁴⁾ と定義されている。これら四種類の辞書だけでも、粵語について「方言」、「中国語の一種 (A form of Chinese)」, 「公用語 (an official language)」など、いくつもの定義が出てきたことになる。

実際にはより多様な議論がある。2014 年 1 月 24 日に香港教育局は公式ウェブサイト、「語文学習支援」という文章を掲載している。「基本法によれば中国語と英語は香港の法定言語とされているが、97%に近い地元の人々は広東語（法定言語ではない一つの中国の方言）を日常生活および日常的な交際の常用言語としている」⁽¹⁵⁾。

この文章に対して非難が殺到し、同年 2 月 2 日、教育局は公式に謝罪文を掲載し、「広東語は地元の大部分の人々の母語であり中文口語である」⁽¹⁶⁾ と説明した。広東語すなわち粵語への「法定言語ではない一つの中国の方言」という注は曖昧であったため早急に修正し、誤解を生んだことに対して謝罪したと教育局は釈明を行った⁽¹⁷⁾。

しかしながら 2018 年、教育局は公式ウェブサイト、研究者の宋欣橋が書いた論文「浅論香港普通話教育的性質与発展（香港の普通話教育の性質および発展を論じる）」を掲載し、再度香港人の反発を招いた。その論文で宋は、「母語」とは民族の共通語であり、香港の人々は主に漢族であるので、香港人の「母語」は粵語でなく漢語である、と論じた⁽¹⁸⁾。

教育局は当初、粵語は法定言語ではないと説明したが、9 日後に、粵語は「主に香港人の母語であり、中文の口語だ」と論調を変えた。中文は基本法の中で法定言語と明記されているので、粵語は法定言語である中文の口語ということになる。しかし、9 日間で相反する説明を提示した政府側は一体何を意図していたのだろうか？ 宋欣橋の論文を公式ウェブサイトに掲載したこと自体、教育局の 2014 年の説明とも矛盾する。

政府のみならず、香港の学界も同様である。『粵語的政治：香港語言文化的異質与多元（粵

語の政治：香港の言語文化の異質性および多元性』という本の中で、陳允中（1970 年生）は歴史的建造物の再活性化運動を行った際、地元の人々と交流し、彼らの広東語にも訛りがあることが分かったと述べた。この経験から陳は、香港に標準的な粵語は存在しないと主張した⁽¹⁹⁾。陳の分析は明らかに訛りの有無と標準の有無を等しいものと見なしている。一方、同じ本の次の章で梁漢柱は、香港粵語が活力を維持し、使用者が増えていき、使用範囲が広がった結果、香港の「標準語」になったと論じている⁽²⁰⁾。このように、同じ著作の中でも、完全に正反対の議論が展開されているのである。

近年、欧陽偉豪（1967 年生）、彭志銘（1956 年生）など、地元香港の学者や評論家によって粵語についての著作が数多く出版されているが、そこでは粵語の俗語、庶民性の高い言葉や文法が中心に議論され⁽²¹⁾、粵語の標準化、中文との連結といった論点が看過されている。一方陳雲（本名は陳云根。1961 年生）は、粵語は香港の官話だと主張し、方言としての可変性と曖昧性についての議論を回避している⁽²²⁾。胡燕青（1954 年生）は、粵語は「国宝」と指摘し、粵語の歴史的かつ文学的な価値を論じたが、香港粵語の公共性には言及しなかった⁽²³⁾。

「母語」という概念については、中国大陸の研究者が注目している。上述の宋は李宇明（1955 年生）の「母語論」を参考にしている。李は、「母語は民族共通語であり、方言ではない」「方言は「母言」である」と「母語」の概念を再定義している⁽²⁴⁾。民族共通語と地域変種の関係について、田小琳（1940 年生）も李の論文を参考にし、母言は方言であり、つまり民族共通語の地域変種であり、粵語は漢語の地域変種だと論じている⁽²⁵⁾。詹伯慧（1931 年生）は、粵語は方言であり、普通話とは共通語・標準語であり、方言は共通語・標準語に属する言葉だと指摘している⁽²⁶⁾。しかし、各国の一般的な辞書も一般論も、「母語（mother tongue）」に対する理解は李、宋、田とは異なる。中国大陸の論者は「母語」という概念を民族的視点から操作的に伸び縮みさせながら用いている。

また、民族共通語と地域変種の関係から言えば、粵語はもちろん地域変種であるが、他の中国の方言も地域変種である。普通話とは地域変種である北京語と、北京における官話とに基づいて作られ、中国大陸での共通語になってきた。しかしながら、粵語が中国大陸の民族共通語、つまり普通話に属する地域変種だ、という理解は曖昧である。確かに詹の指摘するとおり、方言が共通語に従属するということは、「親子」の関係ではなく、政治、経済、社会の優勢を得た上級形態と下級形態の関係である⁽²⁷⁾。だが、彼と李、田の分析は植民地、あるいは「一国二制度」を有する特別行政区としての香港の内部状況に及んでいない。さらに、「漢語」「中国語」という概念は多くの人々にとって、普通話という大陸の民族共通語と等しい。言語学上の「漢語」「中国語」は中国の各地域の変種の総称であるという前提を明確にしておかないと、「粵語は漢語の地域変種である」という指摘はおそらく「粵語は普通話の地域変種である」と理解されてしまう。

(2) その他の先行研究

本論がとりあげる研究テーマについては、これまで先行研究がほとんどない。その中で、吉川雅之（1967 年生）は戦後香港の社会言語学の発展を回顧し、いくつかのステージに分類している。それによれば、1970 年代から香港の言語状況が分析される際、欧米の社会言語学が活用されるようになった⁽²⁸⁾。1980 年代に入ると、社会全体から話者個人までを研究対象として、言語変異、言語接触、言語習得などに関する議論が幅広く見られるようになり、音声言語だけではなく、粵語の書記言語化への研究も展開されるようになった⁽²⁹⁾。さらに 1990 年代からは、「母語教育」などの言語政策をめぐる研究が目立つようになったという⁽³⁰⁾。

以上の段階において、特に戦後香港の小説、漫画、新聞・雑誌記事から 21 世紀の IT メディアまで、媒体での粵語の書記言語化について吉川は注目し、「今後は IT メディアを媒体として書記言語が研究対象として注目を浴びることを期待したい」⁽³¹⁾と述べている。吉川自らも「粵語混在文」「書面粵語」を分析している⁽³²⁾。同じ 2002 年、黄仲鳴の『香港三及第文体流変史（香港の文言・白話・粵語混交文体の変遷史）』⁽³³⁾が出版された。また、李婉薇の『清末民初の粵語書写（清末民初における書記言語としての粵語）』⁽³⁴⁾は 2011 年に出版され、2017 年に修訂版が再版された。張双慶は、近年香港における本土意識が高まっているため、李の本が人気を集めたことは完全に理解できると同書序文で指摘している⁽³⁵⁾。香港粵語の状況は香港社会とともに変化し、「書面粵語」という「非規範」「逸脱」の発展は研究者の注目を浴び、歴史を遡及する可能性と今日のアイデンティティ問題との結びつきは、研究の発展性と読者自身の本土意識を同時に満足させることができる。言い換えれば、客観的な研究にせよ、アイデンティティの充足にせよ、香港粵語の未標準化は比較的強調されているが、標準化に関する検討はまだ不足している。

廣江倫子（1972 年生）と吉川雅之は、香港の 1974 年の公用語条例改正と中文の使用を分析し、従来の研究者が論じている 3 段階 —— ① 1842-1974 年：中文は政庁と司法体系において使用されていなかった。② 1974-84 年：公用語化によって中文の公的地位が上昇したが英語より下位であった。③ 1984 年以降：英語と中文が公用語として出現した —— の分類を回顧した⁽³⁶⁾。両者は時期の区切り方を検討し、(1) 1974 年以前中文はすでに公共行政のレベルで使用されていたが、(2) 1974 年以降、行政と司法において中文の使用が限定され、中文の公用語化はむしろ象徴的な意味を持つ、という重要な指摘をしている⁽³⁷⁾。ただし両者は、1961 年の香港民政署のセンサスを引用し、「（音声言語面で）広東語を共通語とする」社会が当時の中華系住民によって形成されつつあると指摘しているが、その点を中文の公用語化運動の分析の中に含めなかった⁽³⁸⁾。

事例研究の不足以外にも、社会言語学の理論と香港言語の特異性との分断についても注意せざるを得ない。たとえば、ハドソン Richard A. Hudson（1939 年生）は、「「正しい言語」と考えられる唯一の変種を標準語ということは、おそらく間違っていない」⁽³⁹⁾と指摘

している。彼は標準語が経てきた四つのプロセス、すなわち、選択、成文化、機能の精密化、認容を取り上げて説明している。それによれば、「標準化」とは、(1) 中心地の政治、商業、教育機関、社会で選択され、威信を獲得し、変種の話者もこの威信を共有すること、(2) 変種の「正しさ」を確定するため辞書などが出版されること、(3) 政府、国会、裁判所、教育などあらゆる種類の文書でも用いられること、(4) 相当数の人々に受け入れられていること、と理解できる。香港粵語は一見「標準化」に合致しているようだが、合致していないところもある。したがって、欧米の理論を適用するのは分析に役立つが、それを無批判に用いて香港粵語を定義すると、重要な論点を見落とししかねない。

Ⅲ 粵語の「未標準化」と「標準化」

香港の粵語は他の変種と同様に、語音、語彙、文法という三つの基本的要素によって構成されており、話し言葉と書き言葉として使用されている。書き言葉としての粵語（「中文」と重なっていない語彙や文法）はまだ標準化されていないと見なすことができる。粵語の独特な語彙、文法、および粵語の文章への応用に関する辞書や研究は広く出版されているが、政府による公式書類や文書あるいは民間の団体、会社が作る正式な書類や文書では粵語は基本的に使用されていない。ただし、新聞の娯楽欄、文学作品の創作、さらに日常生活のさまざまな場面において、粵語（「中文」と重なっていない語彙や文法）で直接表記することは珍しくない。

標準化されていない具体例として、助詞の「di1」（一般的粵語表記：「咁」；中文：的・之；日本語：の）、動詞の「lai4」・「lei4」（一般的粵語表記：「嚟」；中文：来；日本語：来る）が挙げられる。「咁」を「D」「d」と表記する人もいる。「嚟」を「黎」「来」と表記する時もある。「足を揺らす（貧乏ゆすり）」の粵語は「un 腳」である。動詞「un」の漢字が分からない人が多いので、粵語の音を英語で表記して済ませている。「un」の「正しい」書き方は「蹠」と指摘する人もいるが⁽⁴⁰⁾、「印」「爿」と書く場合もよくある。

話し言葉としての粵語にも、標準化されていない事例がある。たとえば、「滑 lu lu」（香港の民間による一つの表記）の意味は「ぬめぬめ」であるが、決まった書き方がないだけでなく、発音も標準化されていない。一般の香港人は、「waat6 lyut1 lyut1」で発音するが、Durex（コンドーム）のコマーシャル⁽⁴¹⁾のように「滑捫捫」と表記すると、香港語言学学会⁽⁴²⁾によれば、発音は「lyut3」「lyut6」になる。あるいは譚炳文（1933年生）の「牛油蛋撻（バターエッグタルト）」という歌では、歌詞は「滑啍啍」（一般的な発音：waat6 dyut1 dyut1；香港語言学学会によれば「dou1」になる）と書いているが、譚炳文は「lyut1」と発音する。これはどう発音すれば「正しい」のか定説がない事例の一つであろう。

さらに注意すべきは、香港の粵語には特殊な語彙があることである。このため中国大陆、台湾で常用されている使い方と違う時は、標準化されていない方言だと理解されることが

多い。たとえば「水を飲む」は、中国大陸、台湾などでは一般的に、書く時も話す時も「喝水」となるが、香港の粵語は「飲水」になる。話す時は自然だが、「飲水」を書くと「正しくない」と指摘されるかもしれない。だが、「飲水」の方が伝統的な中文の用法である。西晋の張華（232-300 年）撰『博物志』には、「真の茶を飲めば、人をして眠睡を少なからしむ（飲真茶，令人少眠睡）」⁽⁴³⁾ とある。さらに、香港考試評核局という公式の大学入試試験機関が作成して出版した「中国語文」試験についての報告書では、受験生が「試験中、試験監督の許可を得てないまま勝手に水を飲む（在考試期間，未知會主考員而自行飲水）」という注意項目が書いてある⁽⁴⁴⁾。つまり、香港で現在使われている粵語は古典の中文と共通している部分がある。そのまま文章で書くと間違いであり、標準的ではないと指摘されるかもしれないが、歴史性や香港の制度性という切り口から考えると、一概にそうとは断言できないだろう。

以上より分かるとおり、書き言葉および話し言葉としての粵語が中文と重なっていない部分には、定説がない場合が多い。しかし、ある部分の粵語は中文と重なっていて、歴史と制度から得た権威があるので、中国大陸や台湾で常用されていないとしても、必ずしも標準的でないとは言えない。一方、粵語が中文と重なっている部分は中国大陸や台湾、海外華人社会で共通している中文とも基本的に同じであり、標準化されていると見なされる。

実は、使用する場面によって、粵語の標準化の程度は異なる。庶民的な雰囲気になるほど標準化の程度は低くなり、公式的になるほど標準化の程度は高くなる。以下、例として 1976 年の映画『半斤八両』（日本公開時の標題は『Mr. Boo! ミスター・ブー』）の主題歌「半斤八両（ミスター・ブー/Mr. Boo!）」（歌手は許冠傑 Samuel Hui, 1948 年生）の歌詞と、2016 年当時の香港の行政長官・梁振英（Leung Chun-ying, 1954 年生。在任 2012-17 年）の旧暦新年の賀辞を比べてみる。

〔「半斤八両」歌詞〕（太字は粵語の部分）

我哋呢班打工仔，通街走羅直頭係壞腸胃，搵個些少到月底点夠洗（**交過鬼**），確係認真濕滯，最弊波士郁的發威（**癲過雞**），一味係咁係唔係亂嚟，畀親加薪塊面**擲起惡睇**（**扭下計**），你就認真開胃，（半斤八両）做到**隻積咁**嘅樣，（半斤八両）**濕水炮仗**点會響，（半斤八両）**夠薑**呀**揸鎗**走去搶，出咗半斤力，想話**攞番**足八両，家陣惡**搵食**，**辺有**半斤八両咁理想（**吹漲**）（後略）⁽⁴⁵⁾

〔日本語訳〕

僕は貧しいサラリーマン、体はクタクタ胃が痛む、安月給で月末はピーピー（鬼より痩せる）、まったくイヤになる、上司はいつも偉そうに（鶏より狂う）、吠えてばかり、昇給を頼めばしかめ面（拗ねる）、おととい来やがれ、（似たり寄ったり）骨身を削って働いても、（似たり寄ったり）たまるのは不満ばかり、（似たり寄ったり）強盗するような

度胸はない、働けど働けど給料はあがらない、おいしい話はどこにもない（まったく）
（後略）⁽⁴⁶⁾

「半斤八両」⁽⁴⁷⁾の歌詞は香港の労働者の現実の大変さを描いているので、意図的に庶民的な雰囲気を醸し出している。たとえば、「打工仔」とはサラリーマン、労働者であり、「湿滞」はやばい、煩わしい（上記の日本語訳は「イヤになる」）と同義である。「波士」は英語の“boss,”つまりボス（上記の日本語訳は「上司」）を意味する。「搵食」とは、生計を立てる（上記の日本語訳では「給料はあが」と訳されている）という意味である。これらの語彙は地元らしさを出しているが、香港でも公式な場面ではほとんど使われない。

一方、歌詞の中の「糴」という語彙は、米を購入するという意味である。この語彙は『孟子』の「告子下」にも「無遏糴（糧を買うことを阻んではならない）」⁽⁴⁸⁾と使われている。現代香港でも、古典が粵語の語彙として残っていることになる。たとえば、「走走糴糴」は、駆けずり回る、苦労を重ねるという意味で使われ続けている。しかし、現代白話文、つまり今通用している中文の中ではほぼ使われず、漢字で書ける人も少ない。ここから見ると、一部の粵語は庶民的で非標準的と見なされるが、古典で使われているような古い言葉を継承している。

また、丸括弧の中の合いの手も庶民的な語彙である。たとえば、「𩶛過鬼」とは、直訳すると、鬼より痩せるという意味になるが、日本語では「雀の涙」になる。文法的に言えば、「𩶛過鬼」の文型は、「形容詞＋前置詞＋比較対象」とされるが、一般の中文は、「比鬼瘦」、つまり「前置詞＋比較対象＋形容詞」である。

わざわざ地元らしい雰囲気を出すために、「半斤八両」は半分以上の歌詞が粵語の比較的特別な語彙や文法によって構成されている。しかし、これはむしろ例外的な用法である。粵語は中文と一致する部分が多い。言い換えれば、標準化されている部分が多いということである。香港の粵語の標準化の程度を、以下の行政長官・梁振英の旧暦新年の賀辞から見よう。

[粵語の文体・話し言葉]（放送用。太字の粵語部分は映像をもとに引用者作成）

中国人特別重視農曆新年。香港係國際大都會，無論本地市民，亦或外地嚟嘅朋友，大家都好享受嘅香港過年嘅節日氣分。要保存香港中西薈萃嘅特色，我哋除咗要重視中國傳統節日，亦要努力傳承中國文化同藝術。今年係猴年，我同太太祝小朋友好似馬騮仔咁精靈；大朋友，「老友記」，不論年齡，不論國籍，都希望大家嚟新嘅一年，心想事成，萬事如意，身體健康！恭喜發財，新年進步！⁽⁴⁹⁾

[書き言葉]（字幕・公文書用。太字は中文と粵語が一致する部分）

中国人特別重視農曆新年。／香港是國際大都會，無論本地市民，還是外地来的朋友，

大家都**很享受**在香港過年的節日気分。／要保存香港中西**薈萃**的特色，我們除了要重視中國傳統節日，亦要努力傳承中國文化**和**藝術。／今年**是**猴年，我**和**太太祝小朋友**好像小猴子般**精靈；大朋友，「老友記」，不論年齡，不論國籍，都希望大家在**新的**一年，心想事成，萬事如意，身體健康！／恭喜發財，新年進步！⁽⁵⁰⁾

〔日本語訳〕（引用者訳）

中国人は特に旧暦の新年を大事にします。香港は国際的な大都会であり、地元の市民と外国からくる友人とを問わず、香港で皆で新年を迎える祝日の雰囲気を楽しんでいます。中華と西洋が併存する香港の特色を守るため、私達は中国の伝統的祝日を大切にしたいうえで、中国文化と芸術を頑張って継承すべきだと考えます。今年は猴年であり、私と妻は子供達がサルのように元気であるよう祈ります。大人もお年寄りも、年齢や国籍に関わらず、皆さんが新しい年に願いがかなうように、何事も希望通りにいくように、健康であることを祈っています！ 金運に恵まれることを祈って、新年おめでとうございます！

太字の部分は、話し言葉（中文と重なっていない粵語）と書き言葉（中文と重なっている粵語）が異なる箇所であるが、実はそれほど多くない。たとえば、日本語の「～は…です」という文型は、粵語の話し言葉の「～係…」(hai6)、書き言葉としての中文は「～是…」(si6)になる。日本語の「～の…」という助詞は、粵語の話し言葉の「嘅」(ge3)、中文は「的」(dik1)になる。また、特定な用語、たとえば「サル」という動物の粵語の話し言葉は「馬騮仔」であるが、書く時はだいたい「小猴子」とされる。これらの例では、語彙は異なるが、文法的語順は変わっていない。

この例文は、香港の公共放送で一般市民に伝えられる新年の挨拶である。言葉の選択は分かりやすく、文学的な修辞も庶民らしい語彙も使用していない。ニュース番組、教育現場、立法会（立法機関）の会議、政府の責任者の発言、地下鉄のアナウンスまで、口語としての粵語は実際のところ中文と重なる部分が非常に多い。

次に、地下鉄のアナウンスの例を挙げよう。香港の地下鉄**荃湾線**に乗って、太子駅に着く直前、粵語のアナウンスが流れる。「下一站太子，乘客可以**轉乘**觀塘線，往調景嶺沿途各站。左邊嘅車門**将会**打開」，意味は「次は太子，觀塘線はお乗り換えです。調景嶺方面の各駅に行くことができます。左側の扉が開きます」。そのアナウンスの中で、「嘅」だけが粵語の特別な語彙であり、他は全て中文と重なる。日本と同じく「ドアが閉まります，ご注意ください」というアナウンスは、香港でも同様に流れる。粵語のアナウンスは「請勿靠近車門」であり、中文と粵語は全て一致している。

以上のように、中文と重なっていない部分の粵語の語彙や文法は、「半斤八両」の例に見られるように、確かに公式的規範がない。発音や書き方は社会における既成の習慣に従う

しかない。だがそれゆえに、香港の粵語は方言だという断定は、単に事実的な側面から全体を説明したにすぎないのである。

IV 試験制度から見る香港における粵語の「事実上の標準化」

香港考試及評核局（考評局）が行う香港の中学校六年生（日本の高校三年生に相当）向けの大学統一入試である香港中学文憑（Hong Kong Diploma of Secondary Education Examination [HKDSE]）の必修科目の「中国語文」のうち、リスニングと総合能力テストの練習問題（考評局が作成）の録音原稿（中文）と音声資料（粵語）を分析してみよう。現在も継続して実施されている香港の大学統一入試の例を取り上げることで、粵語の公式的位置づけを確認していきたい。

リスニングの音声資料に基づいて録音原稿をまとめると、以下の通りになる。添削されていない部分は粵語と中文が一致している語彙・文法である。取り消し線を引いている部分は、録音原稿に従わない音声資料の語彙・文法であり、音声資料と録音原稿に不一致がある。不一致な部分は（ ）と〔 〕で表している。そのうち、（ ）の中の文字は音声資料に採用されている粵語独自の語彙であり、〔 〕の中の文字は、香港の人々が慣れている話し言葉であるが、中文と一致する語彙である。

[音声資料]

当你~~沒有~~（冇）為準時訂一條明確的（嘅）界線，你就会覺得遲一，兩分鐘~~沒有~~（冇）所謂，下一次就会遲五分鐘，然後〔就〕愈遲愈多。這（呢）個情況就好像（似）一輛〔架〕手推車，如果放在（喺）平地上〔面〕，它（佢）自己会〔好〕穩〔定〕穩地（嘅）停在（喺）原地，但是（係），当你把（將）手推車放在（喺）斜坡上（便），並且放開手，即使那〔個〕斜坡的（嘅）坡〔斜〕度（係）很〔好〕平（細）〔啊〕，車還是（都係）会向下溜〔滑〕，而且愈溜〔滑〕愈快！^{⑤1}

[日本語訳]（引用者訳）

時間を守るために明確な境界線を引いていないと、1分や2分くらい遅刻してもかまわないと思う。今度は5分、それでだんだん遅くなる。この場合は手押し車のように、そのまま平地に置くと安定して止まっているが、車を斜面に置いて手を離したら、その斜面の斜角がいくら小さくても、車は下に滑ってゆき、さらに滑れば滑るほど早くなる！

以上の例で明らかにしたいのは、まず、行政長官の賀辞や地下鉄のアナウンスの例と同様に、中文と重なっていない粵語が明らかに少ない点である。文書ではないが、粵語は統

一の入試制度によって録音という形式で公的な場で記録されていることになる。2012 年から始まった HKDSE の「中国語文」はもちろん、2007 年から 2011 年までリスニング・テストが実施された香港中学会考 (Hong Kong Certificate of Education Examination [HKCEE] 1978-2011 年) も、粵語の発音を部分的に標準化させる役割を果たしたと言えよう。

過去に遡れば、1994 年以降香港の大学の入学資格の一つとして、受験者は香港高級程度会考 (Hong Kong Advanced Level Examination [HKALE] 1980-2013 年) の「中国語文及文化」の科目で合格する必要があった。1994 年から 2013 年の最後の HKALE まで、「中国語文及文化」もリスニング・テストが設置されていた HKDSE の場合と同じく、中文と重なっていない粵語は、実際に香港の統一試験 (HKDSE, HKCEE, HKALE) で繰り返して使用され、政府が特別な手引きや法案を制定しなくても、法定の試験機関で使用された。これは「事実上の標準化」と見なすことができるであろう。

HKDSE, HKCEE, HKALE の「中国語文」の試験には、会話テストがある。それには四、五人の受験生が同じグループで行うディスカッションが含まれる。ディスカッションのテーマはさまざまである。たとえば、「以下のうちこの時代で最も良い幸福はどれですか？ 衣食共に満ち足りて、生活が満ち足りること。国家が豊かで、勢力が強く繁栄すること。世界が長く平和であること」⁽⁵²⁾。さらに中国古典に関するテーマもある。「子供に親孝行を教えるため、一つの物語を選ぶなら、以下のどれが良いと思いますか？ 議論して合意を形成してください。木蘭が年老いた父親にかわって男装して出征する。黄香は父親のため枕を扇ぎ、衾を温める。王祥は継母のため氷に臥して魚を求める」⁽⁵³⁾ がその一例である。

粵語の中文と重なっていない部分については、対応する公式の規範的辞書がない。しかし、規範がまったくなければ粵語独自の語彙を試験で使用することはできないであろう。会話テストの試験内容は中国文化、現代社会、世界の諸問題などと多様である⁽⁵⁴⁾。粵語はこうした内容すべてに対応でき、公的試験制度は香港粵語の「事実上の標準化」を繰り返し証明している。

上記の例から、試験制度によって、中文と重なっていない粵語の語彙・文法で「事実上の標準化」が認められるのは一部にすぎないと言える。ただし、それらは政府、司法、教育、ビジネス、市民生活など香港粵語の日常生活における使用範囲とほぼ一致している。「半斤八両」の場合のような非常に庶民的で地元らしい言葉を除くと、多くの粵語の意味、語音、文法の規範はすでに存在していると言える。

では、中文と重なっている部分の粵語の語彙の語音や文法の応用は標準化されているだろうか。もう一つの例を見てみよう。2007 年から 2013 年まで、全香港の中学校五年生向けの統一試験 HKCEE と HKDSE の「中国語文」という必修科目の会話テストには、朗読があった (HKCEE は 2007-2011 年、HKDSE は 2012-2013 年)。朗読テストでは、文章を粵音で読み上げるが、発音の正しさ、速さ、感情の表現などで評価される。2007 年に以下の朗読文章と参考答案がある。

[朗読文章と参考答案]⁽⁵⁵⁾

湾仔這個旧区曾 (1) 經是名聞遐 (2) 邇 (3) 的煙花之地。自從『蘇絲黃的世界』出現後，「湾仔」在許多外国 (4) 浪子心中，引起無數疊 (5) 惑的聯想。当初在填海土地上建成的房子已經殘旧，給人一幢一幢 (6) 拆掉，代替的是更高更遮蔽天空的大廈。偶 (7) 然一座不知何故可以苟延殘喘 (8) 夾在新廈中間的旧樓，卑微得叫人淒酸。有時，我寧 (9) 願它也趕快被拆掉，可是，又会慶幸它的存在，正好牽繫着我的童年回憶。

(1) 曾 cang4 (層)	(2) 遐 haa4 (霞)	(3) 邇 ji5 (以)
(4) 国 gwok3 (郭)	(5) 疊 gu2 (古)	(6) 幢 zong6 (狀) tong4 (唐)
(7) 偶 ngau5 (藕)	(8) 喘 cyun2 (忖)	(9) 寧 ning6 (佞) ning4 (檸)

[日本語訳] (引用者訳)

湾仔という旧区は有名な〈楽しみ〉⁽⁵⁶⁾を探せる場所であった。『スージー・ウォンの世界』があらわれて以来，「湾仔」⁽⁵⁷⁾は多くの外国からの放蕩息子心の心の中で，数かぎりない疊惑的な連想を惹起していた。最初に埋立地の上に建てられたマンションはすでに古くなり，それぞれ取り壊され，代わりにより高く空を覆うようなビルが建築された。たまになぜか分からず残っている古い建物は新しいビルの間に立ち，寂しくて卑小な感じを人に与える。時々，むしろ早く取り壊した方がましだと思うが，その存在はありがたくも感じられて，私の子供時代の思い出につながっているのである。

試験レポートの参考答案によれば，朗読文章はそれぞれ 9 つの採点のポイント（本文の後ろの表を参照）がある。正しい発音は香港語言学学会によって制定されたローマ字表記法に基づく。

朗読テストは，香港の粵語（中文と重なっている部分）の語音に対して，どんな意味があるのだろうか。試験報告に，「朗読テストで発音をチェックするのは，唯一の正しい標準を確立するよう要求しているわけではない。学生がきちんとした態度で真摯に自分の言語に向き合うことを奨励するためである」⁽⁵⁸⁾と書いてある。そこから考えると，試験報告は唯一で正しい標準を確立しようとしたわけではない。しかし，客観的には全香港の教師と生徒たちに，香港言語学学会が編集した発音を標準として参考にするべきだという認識をもたらしたことは間違いないだろう。

HKCEE と HKALE の代わりに，2012 年に HKDSE が設置されて以降も，「中国語文」は香港の

大学に入学するための必修科目として存続した。朗読テストは2014年から廃止されたが、グループ・ディスカッションはまだ継続している。採点の基準には発音の正しさが含まれるかどうかははっきり書かれていないが、2016年のHKDSEの「中国語文」試験の試験報告によれば、受験生が、「古人は親孝行を重視する。以下の伝統的親孝行の行動はどちらがより提唱されるべきであるか？ あなたの意見を言ってください。朝晩父母の世話をし様子を窺うこと（晨昏定省）。祖先、親族、父母の祭祀や葬礼をする時には、その礼と誠を尽くすこと（慎終追遠）」⁽⁵⁹⁾ というグループ・ディスカッションのテーマを議論する時、「晨昏定省」の「省」(sing2)の発音を「saang2」にしてしまう事例が見られた。「省」の発音には「sing2」と「saang2」があり、普通話・国語にも「xǐng」と「shěng」の区別がある。「晨昏定省」の場合、「省」の発音は「sing2」（粵語）か「xǐng」（普通話・国語）が正しい。それについて試験報告は、発音の間違ひが多いことを指摘してこれからの受験生に注意を喚起した⁽⁶⁰⁾。つまり、香港の試験制度で朗読テストは廃止されたが、グループ・ディスカッションには粵音の正しさ（標準的かどうか）を検定する機能はまだ残っていると考えられる。

注意すべきは、考評局が1977年に『香港考試局條例』の第261章（2002年に修訂され、『香港考試及評核局條例』になった）⁽⁶¹⁾ という法律に基づいて設立された「法定機構（法定機関）」である点である。考評局が行う統一試験の「中国語文」「中国語文及文化」の成績は、各大学・高等教育機関だけではなく、香港社会においても幅広く認められ、特に香港政府公務員の就職条件の一つとされている。したがって、考評局の粵語に対する扱い方には威信が付随していると言えよう。

表1 香港における粵語の標準化レベル

粵語		標準化	事実上の標準化	未標準化
書き言葉	中文と重なっていない部分	—	—	○
書き言葉	中文と重なっている部分	○	—	—
話し言葉・発音	中文と重なっていない部分	—	○	○
話し言葉・発音	中文と重なっている部分	○	—	—

出典：筆者作成

以上より、香港の粵語は単なる方言ではないが、単なる標準語とも言えない。方言の曖昧性、庶民性があると同時に、標準語のような権威、公共性もある。[表1] はこれまでの

議論をもとに粵語の標準化のレベルを図示した。香港の粵語は明確な法律によってというよりは、むしろ社会の既成規範とは明言されていない制度によって今日の状態に至ったのである。

V 香港粵語と中文の結合

最後に、これまでの議論を踏まえて、香港粵語と中文の結合について論じてみよう。冒頭で指摘したが、香港における中文は常に粵語と同一視されている。課程發展議會⁽⁶²⁾と考評局が共同で作成して、香港教育局が学校に推奨する『中国語文課程及評估指引(中四至中六)』によれば、「中文は大多数の香港の学生の母語である」⁽⁶³⁾とある。また、一般の香港人にとっても、中文は粵語と同義である。たとえば、香港人には普通の会話で、「中英夾雜(粵語に英語の単語、短い文を混ぜて話す)」という習慣がある。粵語を中文の「中」で表現し、「中英夾雜」という用語が誕生した。

TVB (Television Broadcasts Limited) のドラマ『愛回家之開心速遞 (Come Home Love: Lo and Behold)』では、第196回(2017年11月21日)のテーマは「不能説的英文(言えない英語)」であった。その中の人物の会話では、彼らは「粵語」と「中文」を区別せず、「中文」を話すことと「粵語」を話すことは同義だととらえている⁽⁶⁴⁾。香港において、規模が一番大きい放送局で、無料で多くの番組を提供するTVBが製作した『愛回家之開心速遞』は、平日月曜日から金曜日まで、夜のプライムタイムの8時から8時半に放送される。「不能説的英文」に顕著のように、「中文」と「粵語」を無意識的に同一視することは明らかに社会的な現象であろう。

また、香港のポピュラー音楽では、よく「広東歌(広東語の歌)」、「粵語流行曲(粵語ポップソング)」などの呼び方があるが、正確に言えば、それらは粵音で歌う中文の歌詞の歌(「中文歌」)である。1970年代から活躍していた歌手の許冠傑 Samuel Hui の歌は、前述した「半斤八両」のように、話し言葉としての粵語を直接に歌詞に入れており、「広東歌」と言える。しかし、1980年代に入ってから張国榮 Leslie Cheung (1956-2003)、ロックバンドのBEYOND (1983-99, 2003-05年活動)、1990年代の張学友 Jacky Cheung (1961年生) など多くの歌手の作品は、主に中文の歌詞による「中文歌」である。香港において、日常の中文の語音はすべて粵音なので、これらを粵音で発音される中文歌、「粵語の歌」と認識しても自然であろう。さらに中文歌詞は日常的な粵語とほぼ一致するので、粵音の中文の歌は「粵語の歌」と言っても間違いとは言えない。

香港粵語と中文の一致には、1960年代から見られるもう一つの重要な例がある。以下の説明は、香港の一般的な論説の要約・紹介である。

戦後香港では、英語のみが公用語として認められ、中文は重視されていなかった。こうした状況の中で中文運動(1964-1974年)が行われ、中文を公用語化させることが目指され

た。大学生を中心に様々な宣伝、集会が行われ、知識人、市政局議員などの支持も得た。1970 年に至って、政庁は「公事上応用中文問題研究委員会」を設立し、書面における中文の使用と同時に、口語の「中文」についても議論した。立法局（植民地時代の立法機関、立法会の前身）と市政局に通訳を設置すること、法廷でいかに多く「中文」が使用できるかを研究することも委員会の仕事であった。

1972 年に立法局の非官守議員⁽⁶⁵⁾ 鍾士元（1917-2018）が初めて立法局の会議で「中文」で発言し、1973 年には法定語文事務署が設立され、政府関連の翻訳と通訳の仕事をするようになった。1974 年に『法定語文条例』が修訂され、中文は公用語になった⁽⁶⁶⁾。すべての小学校が「中文」で授業を行うようになった⁽⁶⁷⁾。

1978 年に政庁が考試局を成立し、大学入試試験において学生は英語に合格できれば、中文への特別な要求は必要ないと提言した。当時、香港大学の入学資格には中文が必要ではなかった。これらを背景として、第二次中文運動（1978-1982 年）が行われた。香港教育專業人員協会（教員労働組合）、香港専上学生連会（各大学・学院の学生自治会の連合会）など 32 の団体が中文運動連合会を成立し、「中文」の地位を確立しその使用を促すこと、中学校で「母語」で授業をすることを要求した⁽⁶⁸⁾。

その成果として、1980 年から HKALE が改革され、「中国語文及文化」も英語も大学の入学資格になった⁽⁶⁹⁾。1984 年に、教育統籌委員会は『第一号報告書』を発表し、中学での「母語教育（母語で授業すること）」を促した⁽⁷⁰⁾。1980 年代から 1990 年代まで、『教統会第四号報告書』（1990 年）、『政策大綱』（1994 年）、『教統会第六号報告書』（1996 年）などで「母語教育」の実施を準備した⁽⁷¹⁾。返還の後、1997 年に 8 月に香港政府が『中学教学語言指引』を発表し、1998 年 9 月から「母語教育」が実施され始めた⁽⁷²⁾。香港の中学校の中で 114 ケ所が「英文中学校」と認められ、残っている 300 ケ所余は「中文中学校」になった。教育だけではなく、1995 年 12 月 4 日に香港の法廷で初めて「中文」で審判が行われた⁽⁷³⁾。

以上の文中の「中文」や「母語」の音声は一体何を意味するか、過去の論説は特に答えていない。上述のいくつかの「中文」は、音声と書字とを区別せず「中文」と定義されているが、実際には音声は粵語である。たとえば「中文中学校」の「中文」の音声と「母語教育」の「母語」は基本的に粵語である。1997 年に政府が作成した『中学教学語言指引』を見ると、粵語、中文、母語の一体化は明らかである。「香港の大部分の市民も中文（主に粵語）を母語として、日常生活で中文をコミュニケーションの媒介とする」⁽⁷⁴⁾と述べて、中文と粵語を同一視して香港人の母語だと認めている。

中文運動は「中文」の公用語化を求めたが、中文の口語は何か、多くの議論の中では明らかにされていない。わずかに言及している議論として、たとえば 1967 年の香港大学の学生自治会が編集する『学苑』の記事が挙げられるであろう。「中文は公用語になるべきか？」という調査が行われ、「もし中文が公用語になるなら口語としてあなたは何語を使用すべきだと思うか？」という質問に、総数 111 名の学生回答者のうち、80 名は粵語を選び、24

名は国語（普通話Mandarin）を選んだ⁽⁷⁵⁾。同月の『学苑』では、「口語については、国語と粵語を同時に公用語とすべきである」⁽⁷⁶⁾や、「国語を口語とするなら言語の規範がより明確になるが、香港人には国語が分かるわけではない」⁽⁷⁷⁾という意見もあった。すなわち、中文の口語に関するわずかな議論から見ると、たとえ国語を採用しても、粵語は不可欠である。さらに、当時の粵語の普遍性と運動の過程——学生が宣伝、デモを行う時使用していた話し言葉は主に粵語であった——から見ると、粵語は中文の話し言葉として運動とともに公用語化されていたことが分かる。

第二次中文運動のリーダーであった司徒華（1931-2011）は回顧録で、「香港社会において、95%以上の中国人は粵語を話し、中文を読む」「中国人が自らの言語で、より直接的、徹底的に自分の思想と感情を表すのは民族の問題である」⁽⁷⁸⁾と述べている。彼が指導した第二次中文運動の目的は「中文」「母語」の地位と使用頻度を高めることと、「直接的、徹底的に自分の思想と感情を表す」言語（つまり口語と文語）を追求することであった。これから見ても、粵語、母語、中文はすでに一体化されていたと言えるであろう。

おわりに

粵語には方言として、多くの古語、古音が残っているのは周知のことであり、香港粵語は、地方語・方言の歴史性、多様性、可変性も保っているが、中国に対しては方言である。一方、イギリス植民地（1842-1997年）・中国の特別行政区（1997年-現在）としての香港自体に対しては、中文と強く連結し、権威、普遍性があり、標準語のような地位を持っている公用語でもある。政府、司法機関、立法会、大学、文芸、メディアなどの領域で使用され、古代、現代の中文に対応する粵語の語音システムが発達し、交流語としての粵語自体の機能の面も高められ、語彙が増え、日常生活から政策の議論や学術の思弁にまで用いられるようになった。授業をする時の伝統的な方法——「普教中」⁽⁷⁹⁾を除き、香港の「中国語文」という科目の授業で、近現代西洋言語学を踏まえて造られた拼音、あるいは20世紀初頭に創られた注音符号^{ちゅういん}⁽⁸⁰⁾を使わず、朗読して漢字の発音を暗記するという教えと学びの方法——は香港で維持されてきた。中国大陸、台湾などでほぼ「言文一致」が実現されているのに対して、「言文二途（話し言葉と書き言葉の表現の不一致）」から発展してきた香港の中文は、古代と現代の音韻、語彙、文法、文章の風格など多くの文化に連動している。

香港で通用している言語は、書字においては中国大陸、台湾などと共通の、相互理解が可能な形式が成立しているのに対し、音声（音声化した書字も音声言語も含む）においては中国大陸、台湾などとの相互理解が不能な、独自な形式と対応している。本論文ではこのような特異な現象を踏まえて、香港の粵語は標準化、未標準化、事実上の標準化の特徴も同時に有すること、粵語と中文が同義だと見なされている独特な言語生態も存在していることを指摘するとともに、「中国語」という概念のもともとの開放性を提示し、漢字文化の多

様性について独自の視点を展開した。

[注]

- * 中国語資料の繁体字は、引用にさいし日本の新字体（印刷標準字体）に変更した。ただしウェブのURLの標題は除く。
- * 中国語・英語からの日本語訳はすべて引用者による。

- (1) 書誌情報は以下のとおり。
 - ・中国語版原文＝「第九條：香港特別行政区の行政機関，立法機関和司法機関，除使用中文外，還可使用英文，英文也是正式語文。」『中華人民共和國香港特別行政区基本法』（2019年4月16日最終閲覧）。
https://www.basiclaw.gov.hk/tc/basiclawtext/chapter_1.html
 - ・英語版原文＝“Article 9: In addition to the Chinese language, English may also be used as an official language by the executive authorities, legislature and judiciary of the Hong Kong Special Administrative Region.” *The Basic Law of the Hong Kong Special Administrative Region of the People's Republic of China*. (2019年4月16日最終閲覧)。
https://www.basiclaw.gov.hk/en/basiclawtext/chapter_1.html
 - ・中国語版の日本語訳＝『香港ポスト』No. 1434（保存版香港基本法日本語完訳），2015年7月3日（2019年3月26日最終閲覧）。
<http://www.hkpost.com.hk/history/index2.php?id=12169#.W2UfTy-B2u4>
- (2) Kataoka Shin and Cream Lee, “A System without a System: Cantonese Romanization Used in Hong Kong Place and Personal Names,” *Hong Kong Journal of Applied Linguistics* 11, Hong Kong: The University of Hong Kong, June 2008, p. 79.
- (3) 総督を補佐する職務であり，公務員機構のトップである。
- (4) 瀚青「香港開埠初期中文学塾発展述論」『河北師範大学学报教育科学版』第13卷第5期，石家荘：河北師範大学，2011年5月，18頁。
- (5) 「文翠珊個名咁港女 究竟辺個改？」『蘋果新聞』2016年07月16日（2018年7月21日最終閲覧）。
<https://hk.news.appledaily.com/local/daily/article/20160716/19697725>
- (6) 客家語は，中国語方言の一つである。特に中国東南部（広東，福建，江西，台湾，香港など）や海外の華人社会で使用される。
- (7) 潮州語は，中国語の方言の一つである。特に中国広東省の潮州，汕頭などの地域および東南アジアの華人社会で使用される。香港でも潮州語話者は相当数存在する。
- (8) 「揭示香港方言文学運動」『HKIEdnews』2014年10月第11号，香港：香港教育大学（2018年11月4日最終閲覧）。
<https://www.hkiednews.edu.hk/en/section/index.do%3Bjsessionid=3C81B5102091EC560B0B006A05611682?sectionCode=1412748343969&lang=tc>

- (9) 許宝強「母語教育与情感政治：香港的大学和中学授課語言的文化研究」『思想香港』第6期，香港：嶺南大学，2015年3月，2頁。
- (10) 戚夏蕙「Cantopop 的廣東語：小市民心声」『粵語的政治：香港語言文化的異質与多元』香港：中文大学出版社，2014年8月，96頁。
- (11) 「漢語方言之一。分布於廣東省中部和西南部，廣西省的東南部，香港，澳門一帶，海外華僑使用粵語的人也很多」『中華民国教育部重編國語辭典修訂本』（2018年10月21日最終閱覽）。
<http://dict.revised.moe.edu.tw/cgi-bin/cbdic/gsweb.cgi>
- (12) 新村出編『広辞苑』第七版，東京：岩波書店，2018年1月，672頁。
- (13) “A form of Chinese spoken by over 54 million people, mainly in south-eastern China (including Hong Kong),” *English: Oxford Living Dictionaries* (2018年10月21日最終閱覽）。
<https://en.oxforddictionaries.com/definition/cantones>
- (14) “A Chinese language spoken in the south of China and used as an official language in Hong Kong,” *Cambridge Dictionary: English-Chinese (Traditional)* (2018年10月21日最終閱覽）。
<https://dictionary.cambridge.org/dictionary/english/cantones?q=Cantones>
- (15) 「雖然基本法規定中英雙語為本港法定語言，但接近97%本地人口，都以廣東話（一種不是法定語言的中国方言）作為家居及日常交際的常用語言」（「香港觀察：不能錯過的廣東話？」）『BBC News 中文』2014年2月4日（2018年10月21日最終閱覽）。
https://www.bbc.com/zhongwen/trad/hong_kong_review/2014/02/140204_hkreview_cantones_no_official_language
- (16) 「廣東話是大部份本地人口的母語和中文口語」（香港教育局新聞公報「政策正面睇：「兩文三語」正面睇」2014年2月2日（2018年10月29日最終閱覽）。
<http://www.edb.gov.hk/tc/about-edb/press/cleartheair/20140202.html>
- (17) 同上。
- (18) 宋欣橋「淺論香港普通話教育的性質与發展」（2018年10月21日最終閱覽）。
https://www.edb.gov.hk/attachment/tc/curriculum-development/kla/chi-edu/resources/primary/ptb/jisi4_24.pdf
- (19) 陳允中「香港有標準廣東話嗎？」『粵語的政治：香港語言文化的異質与多元』香港：中文大学出版社，2014年8月，163-166頁。
- (20) 梁漢柱「廣東話与香港社區組織」，同上，173-174頁。
- (21) 歐陽偉豪・彭志銘にはそれぞれ以下のような著作がある。
- ・歐陽偉豪『粵講粵法』香港：明窓出版社，2008年7月。
 - ・同『撐廣東話』香港：明報出版社，2012年4月。
 - ・同『母語夠港』香港：天窓出版社，2016年6月。
 - ・同『廣東話要我』香港：明報出版社，2018年7月。
 - ・彭志銘『正字正確』香港：次文化有限公司，2006年7月。
 - ・同『正字審查』香港：次文化堂有限公司，2007年7月。
 - ・『廣東俗語正字考』香港：次文化堂有限公司，2009年8月。

- (22) 陳雲『保衛香港官話』香港：花千樹，2018年7月。
- (23) 胡燕青「双重優勢：普通話是國語，廣東話是國寶」2018年1月8日（2018年10月31日最終閲覧）。
- <https://www.master-insight.com/雙重優勢-普通話是國語，廣東話是國寶/>
- (24) 李宇明「論母語」『世界漢語教學』2003年第1号，中国：北京語言大学，2003年，48-58頁。
- (25) 田小琳「香港中文教育面臨的重要決措」『雲南師範大學學報（哲學社會科學版）』第44卷第2期，雲南：雲南師範大學，14-21頁。
- (26) 詹伯慧／樋口靖（訳）『現代漢語方言』東京：光生館，1983年5月，7-11頁。
- (27) 同上。
- (28) 吉川雅之「香港の社会言語学研究：回顧と展望」『アジア遊学』第100号（特集＝アジア遊学100号の提案：これからの研究構想を語る アジア学の展望），東京：勉誠出版，2007年7月，95-97頁。
- (29) 同上。
- (30) 同上。
- (31) 同上。
- (32) 吉川雅之「香港の若者が母語を書くとき：非規範の形成」『アジア遊学』第36号（特集＝香港：現在進行形），勉誠出版，2002年2月，110-123頁。
- (33) 黄仲鳴『香港三及第文体流変史』香港：香港作家協會，2002年。
- (34) 李婉薇『清末民初的粵語書寫』修訂版，香港：三聯書店，2017年6月。
- (35) 同上，2頁。
- (36) 廣江倫子・吉川雅之「1974年の公用語条例改正と中文の使用」，吉川雅之編『「読み・書き」から見た香港の転換期：1960～70年代のメディアと社会』東京：明石書店，2009年10月，223-250頁。
- (37) 同上。
- (38) 同上，230頁。
- (39) R. A. ハドソン／松山幹秀・生田少子（訳）『社会言語学』東京：未来社，1988年11月，52-54頁。
- (40) 彭志銘「脈」（2018年10月21日最終閲覧）。
- <http://www.cantonese.asia/portal.php?mod=view&aid=432>
- (41) 映像「Durex Feeling Range TVC 2016（輕飄飄，滑溜溜）」（2018年10月21日最終閲覧）。
- <https://www.youtube.com/watch?v=YdtyroEQBDw>
- (42) 香港語言學學會は，言語学の学会であり，1993年に「香港語言學學會粵語拼音方案」（粵語のローマ字表記法）を制定した。
- (43) 水野杏紀・平木康平「榮西『喫茶養生記』全訳注：「茶」の飲用と仙木「桑」の活用による養生法」『人文学論集』第36集，大阪府立大学人文学会，2018年3月，37頁。原文は，張華撰『博物志』巻四，中国哲学書電子化計画（2019年3月26日最終閲覧）。
- <https://ctext.org/library.pl?if=gb&file=81620&page=52>

- (44) 『香港中学会考考試報告及試題專輯. 中国語文 (2009)』香港：香港考試及評核局，2009 年，130 頁。
- (45) 映像「許冠傑-半斤八兩 MV」(2019 年 3 月 26 日最終閲覧)。丸括弧内は合いの手。
<https://www.youtube.com/watch?v=uzk7QJtHxec>
- (46) 「広東語流行歌の研究：許冠傑の歌詞研究」2004 年 2 月 28 日 (2018 年 11 月 5 日最終閲覧)。
<http://kanken.sakura.ne.jp/sam/banjin/banjin-unicode.htm>
ただし、丸括弧内の合いの手の日本語訳は引用者による補足である。なお、このホームページには「歌詞の各句に施した日本語訳はポリドール・レコード発売の「Mr. BOO!」サントラ盤より引用したものです」と注記があるが、サウンド・トラック盤（製品番号：DPQ6120，発売：1976 年）自体の翻訳は意識の度合いが大きいため、ここでは使用しなかった。
- (47) 「半斤八両」とは、中国の旧制計量単位で一斤は十六両、半斤は八両であることから「似たり寄ったり、団栗の背比べ」を意味する成語。
- (48) 『孟子』告子章句下 167：「無曲防，無遏糴，無有封而不告」。中国哲学書電子化計画（2019 年 3 月 26 日最終閲覧）。
<https://ctext.org/text.pl?node=13743&if=gb&show=meta>
「防を曲^{つづみ}ぐる^まこと無^なかれ。糴^{かひよね}を遏^{とど}むること無^なかれ。封^{ほう}ずること有^ありて告^つげざること無^なかれ」
(堤防を曲げて造ってはならない。隣国が饑饉で困っているような時には、穀物の輸出を禁ずるようなことをしてはならない。人に土地を与えて、これを天子に報告しないようなことがあってはならない)。内野熊一郎『孟子』新釈漢文大系 4，明治書院，1962 年 6 月，427-28 頁。「糴」は穀物を買入れること。
- (49) 香港政府新聞公報「行政長官發表農曆新年賀辭（附圖／短片）」2016 年 2 月 7 日（2018 年 10 月 21 日最終閲覧）。
<http://www.info.gov.hk/gia/general/201602/07/P201602050669.htm>
- (50) 同上。斜線は原文の改段落を示す。「老友記」の鍵括弧は原文のままであり、「老人」や「長者」より、愛想がよい特別な称号である。
- (51) 「香港中学文憑中国語文練習卷試卷三聆聽及綜合能力考核」錄音資料一粵語，錄音稿，1 頁。
- (52) 「以下哪一個是對這個時代最好的祝福？人人豐衣足食；國家富強昌盛；世界持久和平」『香港中学文憑考試考試報告. 中国語文 (2014)』香港：香港考試及評核局，2014 年，67 頁。
- (53) 「如果要選擇一個故事教育兒童孝敬父母，你認為以下哪一個最適合？討論並達成共識。木蘭代父從軍；黃香扇枕溫席；王祥臥冰求鯉」同上，63 頁。木蘭は父親に代わって男装して從軍し，自軍を勝利に導いたという物語の主人公。樂府「木蘭辭」や京劇の題材となる。黃香（字は文強または文彊）は後漢の文官。幼時に母を失い，父によく孝行した。西晋の王祥（185-269，字は休徵）は，冬に鯉が食べたいという継母のために氷の上に横たわり，体温で氷を溶かして鯛を得たとされる。このうち黃香と王祥は，元の郭居敬作と伝えられる『二十四孝』の中で，古來孝子として知られた二十四名のうちに数えられる場合が多い。
- (54) 同上，136 頁。
- (55) 『香港中学會考考試報告及試題專輯. 中国語文 (2009)』99 頁。

- (56) 対応する原文「煙花之地」は「買売春の場所」の婉曲語なので、日本語訳では「楽しみ」に山型括弧を付しておく。
- (57) 灣仔 (Wan Chai/ワンチャイ) は香港島中心部の商業・官庁・住宅街。
- (58) 「朗読巻考査読音，並非為了確立正音標準，更非打算將讀音定為一尊，其實主要是鼓勵學生端正態度，認真對待自己的語言」同上，115 頁。
- (59) 「古人重孝，下列哪一項傳統孝親的行為更值得提倡？試談談你的看法。晨昏定省／慎終追遠」『香港中文文憑考試考試報告 (2016)』香港：香港考試及評核局，2016 年，49 頁。
- (60) 同上，102 頁。
- (61) 「第 261 章：香港考試及評核局條例」電子版香港法例 (2019 年 4 月 3 日最終閲覧)。
<https://www.elegislation.gov.hk/hk/cap261!zh-Hant-HK@2014-01-01T00:00:00>
- (62) 教育局の直轄組織で，主にシラバスの作成を担当する。
- (63) 「中文是香港大多數學生的母語」『中國語文課程及評估指引 (中四至中六)』2 頁 (2018 年 10 月 21 日最終閲覧)。
https://www.edb.gov.hk/attachment/tc/curriculum-development/kla/chi-edu/Chi%20Lang%20CA%20Guide_2015.pdf
- (64) 『「愛回家之開心速遞」——不能說的英文』(2018 年 10 月 21 日最終閲覧)。
<https://www.youtube.com/watch?v=NlnRCVmRUCI>
中文字幕 (粵語對話) [字幕の日本語訳]：
A：回来了，大家好，你們知道嗎？我們吃下午茶的咖啡店有幸運抽獎，我們抽中了大獎，是一千元現金 (返嚟喇，hi，everybody，you know what，me and David so lucky today。我哋去 High tea 呢間 café 有 lucky draw 喎，我哋抽中咗 first prize！係一千蚊 cash！) [ただいま，こんにちは皆さん，知ってる？俺たちハイティーしたカフェで籤引きがあつて，俺たち特等賞に当たった！一千香港ドル現金だぞ！]
(中略)
[B が小さいホワイトボードを皆の前に置くと，ホワイトボードには「廣東語ランキング，熊氏家法，廣東語しか話してはいけない (廣東話龍虎榜，熊家家規，只准講廣東話)」と書いてある。]
B：由於大家說話夾雜太多英文，所以從這刻開始，只可以說中文 (由於大家講說話夾雜太多嘅英文，所以由呢一刻開始，只准講中文) [皆さんは話す時に英語が入りすぎるので，今からは，中文だけ話すことになる]
- (65) 非官守議員とは，民間議員のことを指す。政府である官職につくと自動的に議員となる場合は，官守議員と言う。非官守議員は一般に社会の各階層の名望家であった。1970 年代，立法局で非官守議員と官守議員の議席数はほぼ半々であった。立法局に直接選挙が実施されていない時代，非官守議員は立法局の代表性を高める存在だと見なされた。
- (66) 『法定語文条例』第 5 章 (最終閲覧 2019 年 5 月 3 日)。
https://www.elegislation.gov.hk/hk/cap5!en-zh-Hant-HK.pdf?FILENAME=%E5%85%A8%E7%AB%A0%E7%9A%84%E6%95%B4%E5%90%88%E7%89%88%E6%9C%AC.pdf&DOC_TYPE=A&PUBLISHED=true
- (67) 許宝強，前掲論文。

- (68) 司徒華『大江東去：司徒華回憶錄』香港：牛津大学，2011年7月，228-233頁。
- (69) 『高考及文憑試 HKALE & HKDSE』（2018年8月16日最終閲覧）。
http://www.hkeaa.edu.hk/DocLibrary/About_HKEAA/annual_report/AR2013/HKALE_HKDSE.pdf
- (70) 「為什麼要用母語教學？」香港教育局（2019年3月4日最終閲覧）。
<https://www.edb.gov.hk/tc/edu-system/primary-secondary/applicable-to-secondary/moi/ke-y-events-moi-fine-tuning-bg/moi-guidance-for-sec-sch/sep-1997/mother-tongue/index.html>
- (71) 同上。
- (72) 同上。
- (73) 関永圻・黄子程『我們走過的路：「戰後香港的政治運動」講座系列』香港：天地圖書，2015年6月，175頁。
- (74) 「香港大部分的居民都是以中文（主要是粵語）為母語，日常生活以中文作為溝通的媒介」，香港立法會教育事務委員會『中學教學語言指引』（2018年10月21日最終閲覧）。
<http://www.legco.gov.hk/yr97-98/chinese/panels/ed/papers/ed1508-5.htm>
- (75) 「中文應否成為官方語言？」『學苑』第17号，香港大學學生會，1967年12月16日，7頁。
- (76) 艾凡「暴動，民意與中文為官方語言」『學苑』第16号，1967年12月1日，2頁。
- (77) 「其他意見」『學苑』第17号，6頁。
- (78) 司徒華，前掲書，233頁。
- (79) 「普教中」とは，粵語の代わりに普通話で中文を教えることを意味する。1999年，香港課程發展議會は「普通話で中文を教える」ことの実現を長期的目標としている。2015/2016 学年で「普教中」の授業がある小学校は 71.7%であり，中学校（日本の中学校および高校）は 36.9%である。以下を参照。
- ・『香港學校課程的整体檢視報告：改革建議』（2019年4月3日最終閲覧）。
<https://www.edb.gov.hk/tc/curriculum-development/cs-curriculum-doc-report/holistic-review/index.html>
 - ・『語文教育檢討總結報告』香港：語文教育及研究常務委員會，2003年6月，32頁。
 - ・立法會 CB (4) 1181/15-16 (02) 号文件「2015年4月13日會議／就「以普通話教授中國語文科的政策」的跟進資料」香港：立法會教育事務委員會，2016年7月2日，5頁（2019年4月3日最終閲覧）。
<https://www.legco.gov.hk/yr15-16/chinese/panels/ed/papers/ed20160702cb4-1181-2-c.pdf>
- (80) 注音符号とは，中華民国によって制定された中国語の発音記号の一つである。現在は主に台湾で使用されている。